

いま新富町のこの人が気になる

SHINTOMI-JIN

#013 今月の新富人

菊地清さん(写真右)

1943年生まれ。宮崎市出身。航空自衛隊、高鍋信用金庫への勤務を経て、定年退職を機に創作活動を開始。宮崎県美術展、みやざき総合美術展を通して、連続9回入選。

菊地美智子さん(写真左)

1947年生まれ。新富町出身。小さい頃から絵が好きで、清さんとともに創作を開始。宮崎県美術展、みやざき総合美術展を通して、連続4回入選。

エコアーティスト 菊地清さん・美智子さん

「誰かとお会ったら、その人が喜ぶ作品を作らなきゃって思う。相手が笑顔になってくれると、作りがいがあるよね」
こうしてアートの道へ舵を切ったのは、清さんが定年退職してからのこと。現役時代は仕事一筋で、アートとは無縁の生活で

「夢工房」という名前で開放されたアトリエ兼自宅を訪ねると、「よく来てくれたねえ」と笑顔で出迎えてくれた菊地清(きくちきよ)さんと笑顔で迎えてくれた菊地清(きくちきよ)さん・美智子(みちこ)さん夫妻。庭や室内には、2人の作品が所狭しと並んでいきます。丸い石やゴルフボールに描かれたフクロウ、貝殻の仏像や置物、竹細工の干支、オリジナルの書体で書かれた言葉、大胆な構図の写真など、100品目以上あるそうです。

「縁起物を、自然の素材で作っているのがこだわり。だから、普通ならゴミになる物でも捨てられなくて。これはトウモロコシの皮を乾かして作ったの」とカメの作品を見せてくれました。他の作品も、竹や石、流木、貝殻、あるいは海岸に漂着したゴミといった、自然界から入手した素材を利用していきます。どれも見ていくだけで元気が出てきそうなモチーフばかりです。

などさまざまな人とながら、影響を受けるうちに、扱う素材もテーマも広がっていったそうです。「人の手でイチから作り上げたものより、自然のものの方が力強いでしょ。流木も貝殻も、同じ形や模様は1つもないのだから。思いどおりの形に作れないこともある分、自然の力を借りて出来上がった作品は、オリジナリティにあふれていると思う」

まさか老後にアート活動をするとは思わなかったね、と語る清さんに美智子さんもうなずきます。

「こうして作品づくりをできるのは、知人の支え、応援、励ましがあったからこそ。私も主人も、アートをきちんと習ったわけじゃないから。全部、自己流。2人で一人前の工房なのよ」

今後、新富でアートの機運が高まってほしいと願う2人。「アートは元気の源。元気である限り、作り続けたいね」と語っていました。



送っていたといいます。老後になり、ゴルフや陶芸など何を始めてもしつくり来ない中で、夢中になったのが自然の素材を使うエコアート。初めは貝殻を使った作品づくりにかかわっていたそうですが、地元の家元の先生

●夢工房(新田9218)を開放しています。お立ち寄りの際はご連絡ください。 園 菊地清・美智子 ☎33・2174